

川越いも研究会

会員マップ

①直売 ②宅配可 ③観いもほり

※電話番号の市外局番は「049」です。

① 荒幡 克典 ①直②宅③観

南大塚6丁目12-33
Tel.243-3895

② 荒幡 淳一 ①直②宅

南大塚6丁目6-33
Tel.243-6158

③ 荒幡 洋一 ①直②宅③観

南大塚6丁目12-34
Tel.243-3023

④ 金子 弥一 ①直②宅

中台2丁目1-25
Tel.243-0073

⑤ 桑田 昌良 ①直②宅

中台1丁目7-18
Tel.243-0064

⑥ 小谷野 光司 ①直②宅

中台2丁目19-14
Tel.243-4146

⑦ 坂本 久雄 ①直②宅

中台2丁目1-31
Tel.242-2984

⑧ 坂本 宏之 ①直②宅③観

中台2丁目2-2
Tel.242-6509

シーズンは、9月～11月上旬！
皆さんのお越しをお待ちしています。
※売り切れの際は、ご容赦ください。

⑨ 坂本 安弘 ①直②宅

中台2丁目15-7
Tel.243-4055

⑩ 戸田 大輔

下松原576
Tel.090-7848-3886

⑪ 中川 雅之 ①直②宅③観

中台2丁目1-29
Tel.242-6146

⑫ 武藤 正義 ①直②宅③観

中台元町2丁目15-20
Tel.244-3247

⑬ 山田 哲也 ①直②宅③観

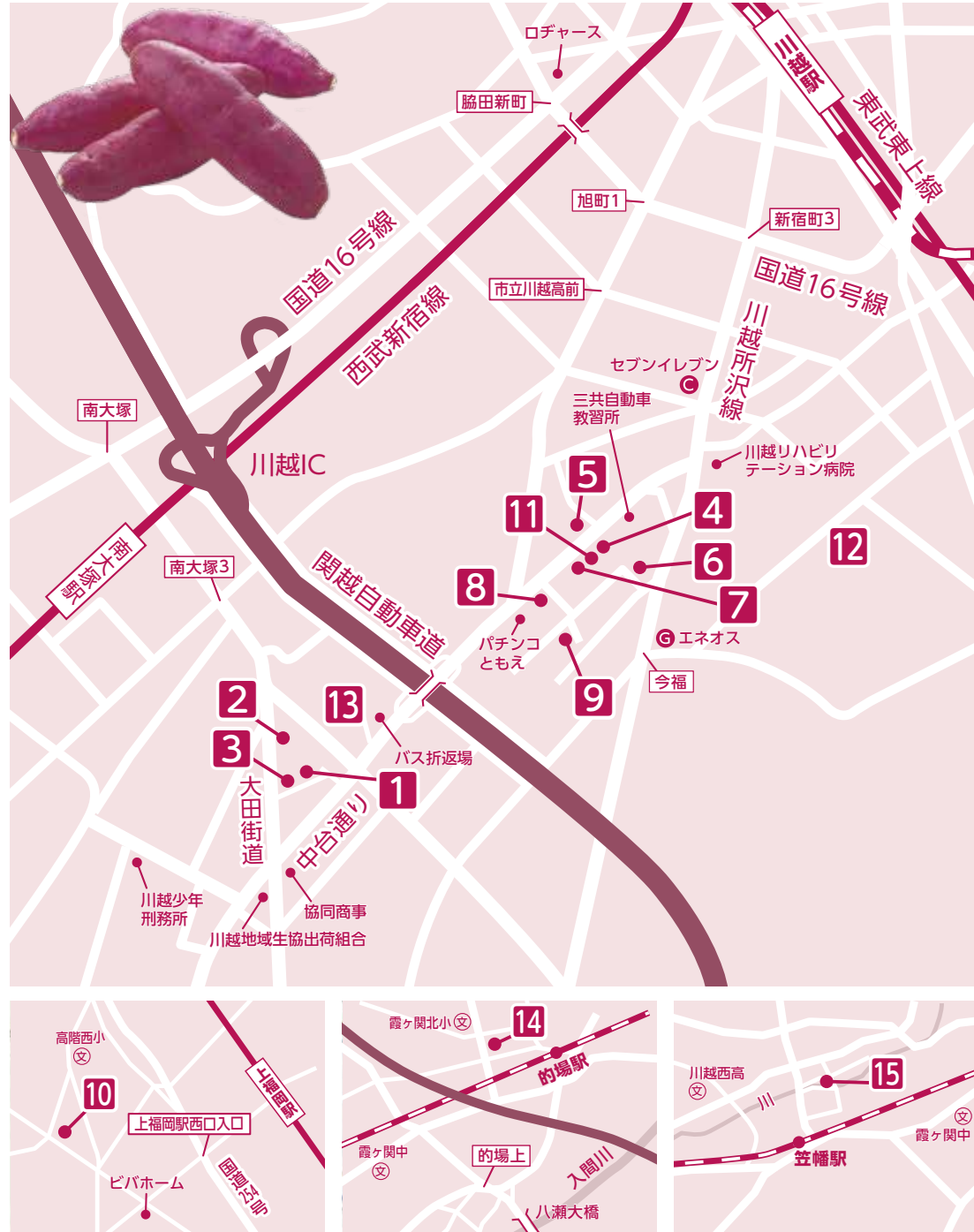
中台南1丁目10-8
Tel.242-6213

⑭ (株)VEGETA穂

的場新町14-2
Tel.233-3002

⑮ 川越いもの子作業所

笠幡1410
Tel.233-2940





川越いも 三二知識

※川越市の
ホームページより
引用しました。



Q 「川越いも」 って？

A 川越は、サツマイモのイメージが定着しているよね。でも、どうしてなんだろう？ その始まりは江戸時代にまでさかのぼるんだ。

サツマイモ栽培が盛んに行われるようになったのは江戸時代のこと、当時、「川越イモ」とは、武蔵野台地の川越藩とそこに隣接する他領の村々で生産されるサツマイモのことを指したんだ。現在で言うと、川越市の他、所沢市、狭山市、新座市、三芳町にあたる大きな地区なんだよ。

この地区では、享保20年(1735年、青木昆陽の栽培法確立から16年後)にサツマイモの栽培が開始され、昭和30年代まではとても多くの生産量があり、一大産地だったんだ。

その後、ほうれん草等の葉物野菜に押され気味で、あまり多く栽培されてないんだ。

でも、有志で「川越いも研究会」を平成20年3月に設立し、栽培安定やPR活動に力をいれているんだよ。



Q 「川越=さつまいも」 はなぜ？

A 川越にサツマイモのイメージが定着したのは、寛政時代(1700年代末)のことで、このころの江戸では焼イモが大ヒットしていたんだ。

理由は、サツマイモが庶民の食べ物では、数少ない甘い食べ物であったこと、そして、とても安く手に入ったからなんだ。

この大ヒットを受け、近郊の村々では、こぞって江戸向けのサツマイモを栽培したんだ。中でも、川越イモは、質がよく最高級品とされていたよ。

また、サツマイモは、重くてかさばるため、陸路での搬送に向いていなかったことも川越に味方したんだ。

川越は、江戸と新河岸川で結ばれているから、船での運搬に向いていたんだ。このためたくさんのサツマイモを出荷できたことも大産地となった理由の一つといえるね。

このように質も良く、流通量も多かったことで、天保時代(1830年ごろ)の書物「諸国名物番付」には、サツマイモの代表産地として川越地方と記載されていたんだ。ここから「川越=サツマイモ」というイメージが定着したんだね。

ちなみに、当時の焼芋屋さんは、「栗(九里)より(四里)うまい十三里」と看板に書いて焼イモを売っていたんだ。これは今でいうキャッチコピーのようなものだったんだ。



川越産農産物
ロゴマーク

川越産農産物ブランド化連絡会(事務局:川越市農政課)では、川越市と連携・協力のもと、川越産農産物を識別できるようにすることで販売促進等を図るために、川越産農産物のロゴマークを作成しました。川越産農産物のおいしさが伝わるような、親しみの持てるロゴマークです。

川越産農産物ブランド化連絡会

〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1
TEL:049-224-5939